資料4－1

嶺北地域アクションプランの進捗状況等について

H21．9．3
嶺北地域本部

1 地域アクションプランの上半期の実施状況

(1) 総評

（※ 以下Ｎｏは、嶺北地域アクションプランの項目番号）

ア 全１８項目について、実行支援チームを編成し、支援及び進捗管理を実施している。

イ 全体としては、概ね実施計画どおり進捗している。特徴的な内容は次のとおり。

（ア） 地産外商の取組としては、生活協同組合かがわ宇多津店の新設に伴う「れいほくコーナー」の開設に続き、同組合の太田店ほか2店舗に「れいほくコーナー」開設予定。（Ｎｏ１、３関係）

（イ） 集落営農については、伊勢川営農組合が、こうち型集落営農モデル事業の認定を受け、意向調査に着手するなど、取り組みが進んでいる。（Ｎｏ２関係）

（ウ）米粉ビジネスの展開につては、米粉工場の稼働、米米ハートの開店（パン・菓子製造販売）等、本格的に事業をスタートした。米粉商品については、冷凍麺の製造販売が始まり、他の商品の開発にも取り組んでいる。嶺北地域を米粉の里とする「米粉の里構想」の実現に向けた取り組みもスタートする予定である。（Ｎｏ３関係）

（エ）米のブランド米の取り組みについては、「土佐天空の郷」というブランド名をつけ、東京や大阪での特約店説明会でのＰＲの機会を得、予定より早く商談を進めることができている。（Ｎｏ４関係）

（オ）木工関係では、本山町商工会青年部木部会「ぼうむ」が、法人化し本格的にビジネス展開に取り組むこととしている。（Ｎｏ１２関係）

（カ）第１－四半期において、やや遅れ気味となっていた事業については、

① 土佐はちきん地鶏の施設整備は、高知県産業振興推進総合支援事業の採択（一部不採択）を受け、事業に取り組むこととなった。（Ｎｏ８関係）

② れいほくスケルトンのソフト面の仕組みづくりについては、核となる事業体にふるさと雇用再生特別基金事業を活用し、営業等の担当者を配置し、取り組みを進めることとしている。

なお、スケルトン住宅の発注状況は、４月から８月までで３０棟（土佐町の町営住宅１０棟を含む。）であり、年間の目標である６０棟の達成は可能と考えている。（Ｎｏ１０関係）

③ 観光関係（2件）については、7月に実行支援チーム会を開催し、取り組みの方向性を共有し、今後、引き続き、具体的な仕組みづくりを検討していくこととしている。（Ｎｏ１７、１８関係）

ウ　少し遅れが見られるもの

・　大川黒牛の再興による地域の活性化については、和牛生産組合の解散とその後の体制等についての取り組みに少し遅れが見られる。（Ｎｏ７関係）

(2) 補助金及びアドバイザーの導入状況

地域アクションプランの項目名	補助金	アドバイザー
１　れいほくブランドの園芸産地の確立とユズの加工拠点づくり ３　米粉を活用したビジネスの展開 １６　土佐産直サテライトセンター（とさ千里（大阪））の活性化による地産外商の拠点づくり ※　「れいほくスタイル環境保全型ビジネス推進事業」として、産業振興推進総合支援事業採択	(総)	
２　集落営農で元気な地域づくり ※　中山間地域集落営農等支援事業採択 （吉延営農組合（本山町）：動噴機整備、耕作道整備、研修等のソフト事業）	(県)	
４　米のブランド化による稲作農業の展開 ※　「本山町特産品ブランド化未来創造構築事業」として、産業振興推進総合支援事業採択	(総)	
５　（株）大豊ゆとりファームを核とする碁石茶等の地域資源を活用した産業再生への取組 ※　「おおとよスタイルビジネス創出事業」として、産業振興推進総合支援事業採択 ※　大豊町元気再生推進協議会提案の「大豊町元気再生ビジネスの創出」が国の「地方の元気再生事業」の採択を受ける。	(総) (国)	
８　土佐はちきん地鶏を活用した新しい産業の展開 ※　土佐はちきん地鶏（生産～販売）づくり推進事業」として、産業振興推進総合支援事業採択（一部不採択）	(総)	
１２　木工製品の製造・販売による地域の活性化 ※　（財）地域活性化センターの「活力ある地域づくり支援事業」採択（本山町。ばうむ関係。） ※　大豊町森林組合では産業振興センターによるアドバイザー派遣を受ける。	(国)	(他)

※　補助金　　：(総)県総合補助金、(地)県地域づくり補助金、(県)その他県単補助金等、(国)国庫補助金等、(セ)産振センター補助金等

アドバイザー：(ア)産業振興アドバイザー、(工)工技センターアドバーザー、(他)その他アドバイザー

２　地域アクションプランへの追加・修正（予定）項目等

【平成２１年度・２２年度の追加に向けての検討項目】

（1）平成２１年度追加検討項目

・　木質バイオマスの利用拡大の取組（仮称）

・　ＪＡ出資型農業生産法人による地域活性化の取組（仮称）

（2）平成２２年度追加検討項目

・　白髪山を活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組（仮称）

・　早明浦ダムを活用した交流人口の拡大による地域活性化の取組（仮称）

※　資料５（有望素材シート）参照

３　今後の重点的な取り組み

（1）産業振興推進総合支援事業費補助金を活用している事業の展開の進捗管理・支援に取り組む。

（2）商工関係の２件（No１５、No１６）については、事業展開の基礎づくり（仕組みづくり）が大切であるので、今後ともこの点に留意しながら、進捗を図る。

（3）地域アクションプランへの位置づけを検討する項目については、ワーキングの実施等、位置づけに向けた取り組みを進める。

（4）産業振興計画について、機会を見出しながら、住民、団体等への周知を図っていく。

資料４－２

○　地域アクションプラン進捗状況（第２－四半期（上半期））

〔◇　計画どおりに進んでいるもの〕

項　　　目	特記事項、留意事項・課題等	進捗状況・３－４半期に向けての対応方針
１　れいほくブランドの園芸産地の確立とユズの加工拠点づくり	【特記事項】 ・「れいほくスタイル環境保全型ビジネス推進事業」として産業振興推進総合推進事業の採択を受ける。（５／１５） ・生活協同組合コープかがわ宇多津店に「れいほくコーナー」を開設（６／２７） ・同コープかがわ太田店ほか２店舗に「れいほくコーナー」を開設予定 【留意事項・課題】 ・ユズ加工施設整備に向けた取り組み 中国四国農政局に事業計画を説明（８／１１、ＪＡほか）。現計画では、「農業・食品産業競争力強化支援事業」での採択は、平成１７年度採択事業からみて、新規性がなく厳しいとの見解。今後、関係者で再検討予定。 ・高知市での直販所の開設 ・集荷システムの構築・生産体制の整備（土佐町） 集荷システムは、１０月開始を目指し、体制整備を進めている。	【「れいほく八菜」の生産技術の高度化】 ・現地検討会、目慣らし会など、ほぼ計画どおりに行うことができた。枝葉の繁茂時期への整枝剪定指導など基礎技術を徹底させるとともに、ＩＰＭや高温対策などについての地域を超えた交流会などを通し、高度な技術の確立を目指して取り組んだ結果、その技術は生産者に定着しつつある。下半期は、土づくりなどの基礎技術の徹底を図っていく。 【「れいほく八花」の生産拡大】 ・球根増殖と実証ほの調査等計画どおりに取り組み、球根サイズによる切り花品質の違い等の課題を把握できた。今後、再度実証ほの調査を行い、ノーブルの栽培技術の確立を進めていく。 【「れいほく八恵」の生産拡大と高付加価値化】 ・生育調査、販売促進活動は、計画どおりに実施できており、下半期も計画に沿って取り組んでいく。 ・ユズ加工場施設は、中国四国農政局での協議内容を踏まえ、関係機関で今後の取組方針やスケジュールを検討していく。 【有利販売に向けた販売戦略の展開】 ・coop かがわ宇多津店での販売拠点づくりについては、順調に進んでおり、他店舗での「れいほくコーナー」設置の動きも出ている。 ・直販システムについては準備を進めており、今後、実務担当者会や運営委員会を通じ、システム構築・充実に向け取り組んでいく。

＜１の続き＞		・　出荷農産物の充実については、各地区で栽培研修会を行った。今後は、その効果が表れるように継続した取り組みを行っていく。
２　集落営農で元気な地域づくり	【特記事項】 ・　伊勢川営農組合が、こうち型集落営農モデル事業の認定を受ける。　（５／２５） ・　吉延営農組合関係で、中山間地域集落営農等支援事業による動噴機導入が採択される。 （６／２交付決定。７／３０から稼働。） ・　吉延営農組合関係で、中山間地域集落営農等支援事業によるソフト事業（研修会）が採択される。 （８／１８交付決定　）	【こうち型集落営農モデル組織の育成】 （吉延営農組合） ・　計画どおり進捗した。 ・　集落営農ビジョンに掲げる生産基盤整備として、動噴機・耕作道の導入計画を作成し決定した。また、視察や講演会などの研修の場を設けるなどソフト事業を導入し、合意形成や動機づけの場を設けることができた。園芸の取組みも概ね計画どおり進捗している。 後期は、レンタルハウスやミニライスセンターの整備について、事業効果の高い計画が作成できるよう、役員会の場等を通じて担い手に対し意識づけを図る。 （伊勢川営農組合） ・　前期の実施計画に基づき計画どおり進捗した。 ・　集落リーダーや担い手を中心に推進体制の整備ができた。また、定期的に推進員委員会を開催し、情報提供や集落営農ビジョン作成に向けて意見交換を行い、参加者の動機づけや合意形成が得られ、園芸実証の実施や直販加工研修会など具体的な活動が進んでいる。 後期は、来年度以降の具体的な活動につながるように、集落の行動計画を営農計画、集落営農ビジョンとしてまとめていくこととなる。このことに向け、今後、目標をより具体化し、共通認識されるまで、動機づけを工夫しながら話し合いを重ねていく。

<２の続き>		【集落営農組織および準じる組織の経営改善】 ・　各地域の推進組織は、２地域で立ち上がり、１地域は１０～１１月に立ち上がる見込みとなっている。実態意向調査・分析が遅れぎみとなった地域もあるが、概ね合意形成もできている。 　後期は、集落実態意向調査の分析をふまえ、年間活動計画、活動方向を具体化して集落営農ビジョンを作成する。
３　米粉を活用したビジネスの展開	【特記事項】 ・　米粉工場の稼働、米米ハートの開店など米粉ビジネスがスタート ・　「れいほくスタイル環境保全型ビジネス推進事業」として産業振興推進総合推進事業の採択を受ける。（５／１５） ・　米粉の里構想の実現に向け、「米粉の里活性化協議会」を設立し、検討を開始予定（９／８） 【留意事項・課題】 ・　米粉商品の開発、販路拡大 ・　米粉の里構想の実現 ・　関西エリアのマーケティング及びこれを活かした販売戦略の構築	（進捗状況） ・　米粉製造は軌道に乗りつつある。中華麺やうどんなど新商品の開発も進んでおり、冷凍うどんは本格販売を開始。また、集荷場や冷凍庫などハード面の整備もほぼ計画どおりの進捗。 （今後の対応） ・　米粉の里活性化協議会による「米粉の里構想」の実現に向けた取り組みとともに、県内外での販路拡大に向けた魅力ある商品開発やより一層の消費者等へのＰＲを実施。関西エリアでのマーケティングを踏まえた販路拡大の取組を実施。
４　米のブランド化による稲作農業の展開	【特記事項】 ・　「本山町特産品ブランド化未来創造構築事業」として、産業振興推進総合推進事業の採択を受ける。（６／９） ・　ブランド名を「土佐天空の郷」とし、商標登録を申請（７／２）	・　ライスセンターの施設整備のハード事業、生き物探検隊・エコファーマー等のソフト事業ともに、ほぼ計画どおりに進んでいる。 ・　ブランド名を「土佐天空の郷」として商品登録申請を行った。 ・　花キラリ特約店説明会への参加により、流通業者に「土佐天空の郷」をＰＲすることができ、当初の予定より早く販売促進活動を進めることができている。

＜4の続き＞	・ 東京（7／26）及び大阪（8／2）の花キラリ特約店説明会において、「土佐天空の郷」をＰＲ。当初の計画より早い時期でのＰＲ、商談の開始を実現。 【留意事項・課題】 ・ 生産者の拡大 ・ 目標販売価格による販路の確保 ・ ＨＰの充実	・ 翌四半期は、ＰＲ販売・営業活動を重点的に行い、有利販売につなげていく。
5 (株) 大豊ゆとりファームを核とした碁石茶等の地域資源を活用した産業再生への取組	【特記事項】 ・ 「おおとよスタイルビジネス創出事業」として、産業振興推進総合推進事業の採択を受ける。（5／15） ・ 「大豊町元気再生ビジネスの創出」として、国の「地方の元気再生事業」の採択を受ける。（6／30） 【留意事項・課題】 ・ 加工品の開発、ビジネス展開 ・ ネット販売の構築 ・ ふるさと支援ビジネスの進捗状況 ・ ふるさと支援ビジネスの研修システムのあり方	【遊休農地を活用したビジネスの展開】 ・ 農作業の受委託、碁石茶の製造、各種機器材の導入・整備は概ね計画どおりに進んでいる。今後も碁石茶生産組合の法人化、農作業受委託等の円滑な取り組みに向けて進捗を図っていく。 【野菜等の地産地消ビジネスの展開】 ・ 新たな販売拠点の開拓、農産物の時期別品目、数量確保に向けた調査活動は、概ね計画どおりに進んでいる。今後、調査結果を踏まえて、具体的な生産体制、配送集荷システムの検討・整備などに取り組んでいく。 【加工品づくりビジネスの展開】 ・ 加工品づくりの具体的な動きが、やや遅れているが、２－四半期には加工品開発業務を発注予定である。実行支援チーム会を開催するなど、大きく遅れの出ないように取り組んでいく。 ・ 碁石茶の販売促進については、積極的に取り組んでおり、事業展開が進んでいる。今後とも、販売促進活動を継続していく。

＜5の続き＞		【ふるさと支援ビジネス】 ・ ふるさと応援団、体験メニューづくりは、ほぼ計画どおり進んでいる。ネット直販システムの進捗がやや遅れていることから、実行支援チームによる支援を強化するなど進捗を図っていく。
6　肉用牛飼育の競争力確保による肉用牛産業の再興	【特記事項】 ・ 土佐褐毛牛販売協議会の設立（本山町）（5／13） 【留意事項・課題】 ・ 牧場整備場所の選定（本山町） 嶺北地域からの受け入れも検討 ・ 土佐褐毛牛販売協議会の活動	・ 土佐褐毛牛販売協議会により、販売チャンネルを広げる取り組みの気運も盛り上がりつつある。 ・ 公共牧場の場所については、選定作業を進めているが、まだ決まっていない。今後、関係者の協力も得ながら新しい候補地を含めて検討していく。
8　土佐はちきん地鶏を活用した新しい産業の展開	【特記事項】 ・ 生産から販売まで取り組む（株）むらびと本舗の設立 ・ 「土佐はちきん地鶏拠点（生産～販売）づくり生産事業」として、一部を除き、産業振興推進総合推進事業の採択を受ける。（8／17） 【留意事項・課題】 ・ 生産から販売までの体制整備 ・ 販路の確保 ・ 次期以降の施設整備も含め、事業計画を検討	・ 孵化、飼育は当初計画どおりにできている。 ・ 施設整備については、一部を除き産業振興推進総合支援事業の採択を受け、整備が可能となった。 ・ 今後は、生産計画に沿うよう育成舎等の施設整備を早期に行い、生産体制を整えていく。
9　間伐推進と木材増産による林業振興	【特記事項】 ・ 森の工場の新規設置場所として、大豊町奥大田・立川、土佐町和田ヶ谷、土佐町笹ケ谷・高須を検討	・ 各町村ごとの連絡会にて、①森の工場設置に向けた共同事業体の推進　②作業路開設に向けた建設業との連携　③人材育成に向けた事業体の連携　④町村広報等による間伐の働きかけ等の課題への対応方針が検討できた。

＜9の続き＞	【留意事項・課題】 ・　各町村間伐推進連絡会での課題への取組・対応の検討 ・　事業の掘り起こし	・　森の工場の推進については、新たに3箇所の掘り起こしができた。 ・　今後、課題事項について、関係事業体と調整を図りながら、現年度事業の掘り起こしと、次年度への予算要望に対する積極的な取り組みを検討する。
１０　「れいほくスケルトン」の性能向上及び販売促進	【特記事項】 ・　土佐町の町営住宅１０棟（うち１棟はモデル住宅）について、スケルトンを採用 ・　スケルトン住宅の受注は順調（受注は３０棟。（土佐町の町営住宅１０棟を含む。）） 【留意事項・課題】 ・　スケルトンタウンプロジェクトの立ち上げ ・　床パネル等の商品化への取り組み ・　パートナー工務店会の開催（関西等、各地区単位での実施を検討）	・　普及・ＰＲが遅れ気味であるが、経済状況が不安定な中、販売促進・発注は順調である。 ・　9月には、ふるさと雇用再生特別基金事業により、1名営業等の担当者を雇用することとしており、担当者の活用などにより、３－四半期は、より普及・ＰＲを充実していく。また、床パネル等の構造部性能向上の取り組みについては、森林技術センター、木材産業課と連携して進めていく。
１１　県産材の地域における率先利用	【特記事項】 ・　林地残材活用促進協議会の設立（8月までに視察も含め6回開催） ・　高知県木づかい促進事業の活用により、本山中学校・吉野小学校に机・椅子４５セット、大豊中学校に机・椅子１００セットを導入予定（9月中） 【留意事項・課題】 ・　加工施設の設置等の検討 ・　林地残材等活用の具体的な仕組みづくり	・　木づかい促進事業活用による学校への木製品の導入は予定どおり終了 ・　林地残材活用促進協議会は計画どおり検討を重ねてきた。今後は、加工施設の設置等の話もあり、その動向をみながら検討していく。

１２　木工製品の製造・販売による地域の活性化	【特記事項】 ・　本山町商工会青年部木部会「ばうむ」ではレーザー加工機を導入 ・　「ばうむ」は、法人化を予定（９月設立予定） 【留意事項・課題】 ・　「ばうむ」における商品開発、販路の確保 ・　大豊町森林組合における新たな事業展開の検討	(ばうむ) ・　２－四半期に法人化、ショップのオープン、ホームページの開設、営業ツール等の整備など計画どおりに進んでいる。 ・　次半期は、これをベースに営業・商品開発に注力していくこととする。 (大豊町森林組合) ・　小枝ビジネスの新たな展開に向け、産業振興センターの事業を活用して、ビジネスの総合的なアドバイザーを導入した。今後は、その内容を踏まえ、新たな事業展開に向けた取り組みを検討していく。
１３　特用林産物(シキミ、サカキ)の拠点づくり	【留意事項・課題】 ・　モデル集荷地域として、本山町内を想定。具体的な試行開始に向けた取り組み。	・　本山町をモデル地域として取り組んでいくことで意思統一がなされた。 ・　下半期は、モデル地域における勉強会を重ね、出荷、束ね方の研修、施設整備の検討を行うとともに、他の地域や生産者を巻き込む取り組みを行っていく。
１４　大型製材工場の誘致による地域材の利用の促進	【留意事項・課題】 ・　誘致の取り組みについては、木材産業課等からの情報収集。進出時期が決定するまでは、情報収集や嶺北地域町村等との情報交換による現状把握と課題の共有等が中心。	・　引き続き、誘致先の情報収集を行うと共に、関係機関との情報共有化を図っていく。
１５　地域産品販売ポータルサイトによる商業展開・情報発信	【特記事項】 ・　実施主体が土佐町雇用創造協議会となる。 【留意事項・課題】 ・　ホームページのフレームの磨き上げ ・　素材の発掘。集荷・配送等の仕組みづくり。	・　フレームの作成、サイト運営者の決定、サイト素材の掘り起こしなどホームページ開設の準備が整った。 ・　下半期は、サイトを開設し、アクセスと注文数が多い魅力あるサイトとするようフレームの改善や素材の発掘に継続して取り組んでいく。

１６　土佐産直サテライトセンター（とさ千里（大阪））の活性化による地産外商の拠点づくり	【留意事項・課題】 ・　来年度の新装オープンに向けた課題の整理、対応の検討 ・　経営戦略の検討	・　経営戦略の原案策定は、まだ時間を要する見込みであるが、課題項目の共有はできており、遅くとも年度内を目途に整理を完了する見込み。実行支援チームを開催し、検討を継続していく。
１７　嶺北地域の連携による交流人口の拡大	【留意事項・課題】 ・　４町村の連携した取り組み ・　コーディネート組織を見出すこと	・　４町村の連携の必要性や諸課題の共通認識ができた。次期は具体的な今後の取組に関して検討を進めていく。その足がかりとして、まず嶺北地域の観光パンフレット作成の取組を行っていく。
１８　濁酒を活用した地域資源との連携による地域の活性化	【留意事項・課題】 ・　個人の設備投資資金の確保 ・　個人への行政の支援策 ・　任意団体での資格取得等の法的課題	・　取組の具体化に向け、研修会への参加や実行支援チーム会での課題整理等に取り組んできている。事業の具体化には、まだ時間を要するが、下半期は、地元関係者の窓口である大豊町と課題への対応も含め連携して取り組み、今後の地域全体の取組の方向性を整理し、進めていく。

〔◇　計画より少し遅れぎみのもの〕

項　　　　目	特記事項、留意事項・課題等	２－４半期に向けての対応方針
７　大川黒牛の再興による地域の活性化	【留意事項・課題】 ・　和牛生産組合の解散時期とその後の体制の確立	・　和牛生産組合の解散と、解散後に新たな受け皿となる組織についての検討が遅れ気味となっている。村は和牛の振興を図ることとしており、関係者が協議のうえ、今後の和牛振興に向けた方向性を早期に決定する必要がある。